安村張り子店

展示期間

2026年
12月4日(金)
10時—17時
入場無料
12月19日(土)

店休日
10日 11日 12日

場所

香川県高松市兵庫町4番地3
宗家くつわ堂の横



「安村張り子店」は、広島に生まれ、いまは秋田に住む安村卓士（美術家）が、高松に滞在し生み出した安村張り子のお店です。

高松アーティスト・イン・レジデンス2026採択アーティストである安村は、高松に計2ヶ月ほど滞在し、いろいろな事物に触れてきました。海、貯水池、張り子、郷土玩具、民藝、商店街、島、椅子などのリサーチを経て、収集されたアイデアが気ままに踊った張り子のコレクションとなって並びます。

期間中は店内での滞在制作も予定していて、お越しになる皆様のアイデアも張り子になるかもしれません。



Tak AiR
高松アーティスト・イン・レジデンス2026

リサーチした張り子の魅力

1. 手作りで、一つ一つが少しずつ違う
2. 懐かしさを発生させる
3. 手近な素材やテーマ、モチーフで作られていて、その土地の風土性が現れる
4. 無骨さ、ゆるやかさ、面白さ、軽やかさ、ひょうきんさがある
5. 紙でできていて、独特な軽さがある
6. 多様な大きさ
7. 郷土玩具である（曖昧なポジションである。民芸でもあり、アートでもある）
8. 作りたくなる触発性がある









4 型から取り出す



3 乾燥させる



1 型を作る





2 紙を貼る



5 切れ目に紙を貼る



6 組み立てる



8 紙付けして完成



7 下地を塗る



期間：12月
17日・18日・19日
張り子引換券

高松張り子との出会い

私の作品づくりにおける美的な関心は、美術を知る以前の遊びや玩具によって育まれてきました。小さかったころは駄菓子屋に入り浸り、遊びや玩具に影響を受けてきました。その体験をもとに作品を作っています。

高松のことを調べていて、高松の張り子に出会いました。宮内フサさんが作った奉公さんという張り子の人形でした。表面が凸凹していて、紙のしわをそのままに作られた造形と、筆でザッと塗ったような筆跡と色に不思議な無骨さと愛らしさがありました。規格化された、同じような形が並んでいる今の玩具や物とは全く違う、魅力的な未完成さや素朴さ、しかし、人を惹きつけるような力があるように思いました。ぜひとも、これを実際に見てみたいし、このように作品を作ってみたいという、憧れのようなものが芽生えました。

そして、実際にフサさんの作った奉公さんや虎、豆人形などを見て、そのすごさに圧倒されました。あっけらかんとした作ることへの迷いのなさがそこにはありました。僕もフサさんのように作品を作ってみたい。と素直に思いました。きっと、その領域へ向かうのは遠い道のりですが、向かってみたいと思っています。（安村）





宮内フサ（みやうちふさ、1883年～1985年）は、高松出身の明治から昭和時代にかけて活躍した高松張り子の制作者。102歳で亡くなるまで張り子を作り続けた。
彼女の作品は無骨で愛らしく、人を惹きつける魅力がある。奉公さんや虎、ふりつちなど数多くの作品を制作した。

イベント・プログラム

開店記念トーク（ギャラリートーク）

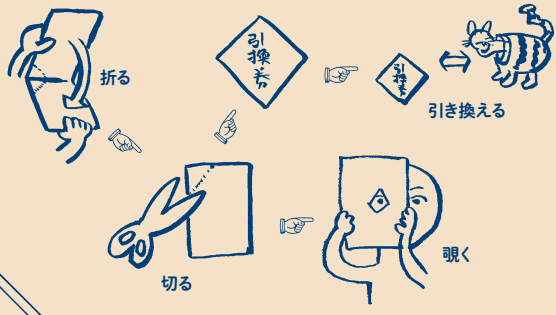
12月5日(土)
13時—14時

安村が店内を案内しながら、高松滞在の思い出や、
制作秘話を語ります。予約は不要です。

閉店セール（張り子引き換え会）

12月17日(木)・
18日(金)・19日(土)

12月17日・18日・19日の3日間、閉店セール開催！
引換券1枚と、店内の安村作品1つを引き換えることができます。
（※数に限りがございます）







やすむらたくじ・美術家

安村卓士

1995年、広島生まれ。秋田在住。2022年、秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科修了。かたちを組み合わせ、ズラし、構築し、人間に働きかけ、行為を誘発する装置をつくる。それは触れて遊べる美術作品であり、おもちゃであり、家具、建築、装身具、映像、言語となっていく可能性がある。

https://www.yasumura-takuji.com

安村張り子店

高松アーティスト・イン・レジデンス2026 成果発表展
安村卓士『安村張り子店』

主催：高松市

お問い合わせ：高松市文化芸術振興課
〒760-8571 高松市番町1丁目8番15号
TEL：087-839-2636 ／ FAX：087-839-2659
MAIL：bunka@city.takamatsu.lg.jp

「高松アーティスト・イン・レジデンス」とは
アーティストが高松市に一定期間滞在し、高松の歴史や文化、自然、産業など高松ならではの地域資源を活用しながら、地域とのつながりの中で作品制作を行うアーティストの支援事業として2015年に開始。これまで20組のアーティストたちが参加してきました。

グラフィックデザイン：結城鷹（GraphiCurate）／イラスト：安村卓士